

# 「コネクテックアジア 2018」 「ブロードキャストアジア 2018」が開催

神谷 直亮

「最新のメガテクノロジー・イベント」を謳った「コネクテックアジア 2018 (ConneTechAsia 2018)」が、6月26日から28日までシンガポールで初開催された。とは言っても昨年まで「ブロードキャストアジア (BA)」「コミュニックアジア (CA)」の2本の旗印を掲げていたコンベンションに「ネクストアジア (NXAsia)」を加えて1本化したものだ。展示会場は、「BA2018」がサンテック・シンガポール、「CA2018」と「NXAsia2018」はマリナベイサンズ・コンベンション・センター (MCC) に分かれており、取材には少々不便であった。本稿では、初日の朝に行われた「開幕セレモニー」と「BA2018」についてレポートする。

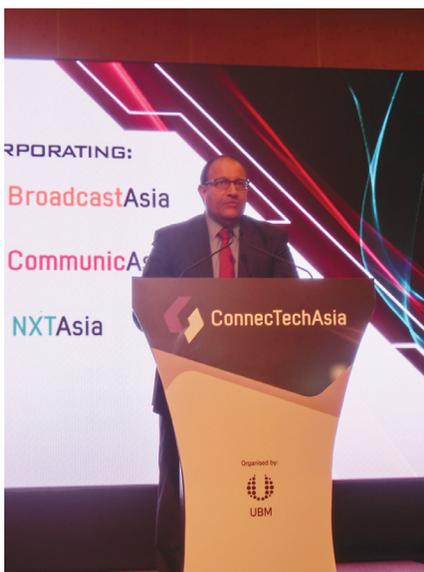


写真1 「コネクテックアジア 2018」の開幕セレモニーには、シンガポール政府の S. イスワラン通信・情報大臣が登壇した。

初日の朝に MCC で開催された「開幕セレモニー」には、シンガポール政府の S. イスワラン通信・情報大臣とコネクテックアジア 2018」を主催した UBM アジア社の M. ガンデイ副社長が登壇した。

イスワラン大臣は、「東南アジアの強みは、中産階級が急増しており、その半数以上がまだ 30 歳以下である。技術志向が強い彼らは、インターネット経済の拡大に大いに貢献している。例えば、インターネット・ショッピング業界は、2017 年に 377 億ドルを売り上げたが、2021 年には 648 億ドルに達する見込みである」と述べた後、「コネクテックアジアは、シンガポールを中心とした通信、放送、技術、サービスなどの全体的なエコシステムと、これらの幅広い領域の最先端の知識を習得する絶好の場であり、ぜひ有効に活用してデジタルエコノミーの波に乗ってほしい」と要望した。

一方、ガンデイ副社長は、「BAの会場には、最新の 4K8K カメラ、ウルトラ HD コンテンツ、OTT プラットフォーム、プロダクション関連の機器やシステムが展示されている。CA の会場では、早ければ来年に始まる 5G の最新技術を探査することができる。NEXAsia の会場では、AI、VR/AR、ロボット、ブロックチェーンなどにスポットライトを浴びせている。さらに、WeOne と Cresmos の協力を得て、eSparks が体験できる eSparks Arena Studio を設営した。最新のイノベーションと知識を集約した本展示会を、皆さんのコネクテッドワールド

をスマートに構築する場として役立てて欲しい」と語った。

「BA2018」の会場には、日本を代表するソニー、パナソニック、キヤノン、池上通信機、リーダー電子、日立国際電気、朋栄をはじめとする世界各国の 634 社・団体が出展した。

ソニーは、XDCAM (PXW-Z190、PXW-Z280)、スイッチャー (MVS-3000A)、4K OLED モニター (PVM-X550)、IP ライブプロダクションを 4 本柱にして展示とデモを行った。さらに、特設コーナーを設けて、同社が誇る「HXC-FB80」「HDC-4300」カメラの売込みに余念がなかった。

パナソニックは、4K ハンドヘルドカムコーダ (AG-UX180EN)、ライブスイッチャー (AV-HS6000)、86 型 4K ディスプレイ、8K ROI システムに加えて、興味深い 2 件の展示とデモを実施した。1 件は、PTZ カメラ (AW-UE150) で、「業界初の 4K 60fps、視野角 75.1 度を実現する」と説明していた。発売予定と価格を聞いて見たら「今年 12 月に発売予定で、価格はコントローラ込みで 14,000 ドル位になる見込み」との回答であった。もう 1 件は、360 度ライブカメラを使ったデモで、会場内をぐるりと撮影して来場者に性能を確認させていた。

キヤノンは、5.9K フルフレームシネマカメラ「EOS-C700FF」と「EOS-C700FFPL」を目玉にして出展した。も



写真2 ソニーは、XDCAM の新製品「PXW-Z190」と「PXW-Z280」を熱心に売り込んでいた。



写真3 パナソニックは、業界初という 4K 60p PTZ カメラ「AW-UE150」を訴求した。



写真4 キヤノンは、意表を突くミニカメラ「MM-100-W5」をスマートキャスト送信機と組み合わせて紹介していた。



写真5 ARRI は、4K 35mm フルサイズセンサーを搭載した「AlexalF」の売込みに余念がなかった。

う1点注目を集めたのは、才数が1.57 x 1.57 x 0.85インチのミニカメラ「MM-100-W5」で、モバイル回線を使用するソリトンシステムズのスマートキャスター送信機との組み合わせで紹介していた。

**池上通信機**は、3G 3CMOS HD HDRカメラ「HDK-99」をブースの中心に据えて「4K Output BoardとBS-98/CCU-980を使えば、4K制作も可能」と、熱心に売り込んでいた。同社のブースには、「HDK-73」も紹介されており、4KよりフルHD HDRカメラを訴求する販売戦術が如実に見られた。モニターの展示も行われており、4K HDR 31型モニター「HQLM-3120W」が注目を集めていた。

**リーダー電子**は、ZENシリーズのラスタライザー「LV7600」を目玉にして出展した。説明員によれば、「4K、12G SDIとIPに対応する最新のハイブリッド製品」とのことであった。

**日立国際電気**のブースでは、4Kプロダクションカメラ「SK-UHD4000」に加えて、直径1.2メートルのKuバンド可搬型衛星通信アンテナが目についた。担当者によれば、「日立国際電気トルコ会社が製作・販売に関わっているので展示に踏み切った。この他に、直径1.8メートルと1.5メートルの製品も揃えている」という。アジアや中東で、これから2K/4Kライブコンテンツの衛星へのアップリンクが増えると見ているようであった。

**朋栄**は、12G-SDIに対応する4K製品とソリューションを前面に押し出していた。具体的には、4Kビデオスイッチャー「HVS-6000」と「HVS-6000M」、シグナルプロセッサ「FA-9600」、アップダウンクロスコンバーターモジュール「USF-106UDC-12G」、オーディオマルチプレクサー「USF-101MDX4-12G」などをブースに飾って売り込んでいた。

上述した日本の出展者以外で目立ったのは、ブラックマジックデザイン、グラスバレー、ARRI、REDデジタルシネマ、ハー

モニック、V-Nova、テレストリームだ。

**ブラックマジックデザイン**は、多種多様な製品を同社特有の価格を明記する方式でブースに整然と並べていた。敢えて一例を挙げれば、3月に発売したばかりという「URSA BROADCAST」カメラを3,495ドルで売り込んでいた。このカメラは、B4マウントでウルトラHDにも対応できるとのことであった。

**グラスバレー**は、「LDX-86N」の4Kセンサーをコンパクト化して搭載したという「LDX-C86N」カメラをブース正面のステージで紹介していた。プロダクションスイッチャーに関しては、「K-Frame Korona V-Series」を中核に据えてIPソリューションを大々的にPRした。SMPTE2110規格が固まったことで売れ筋と見ているようであった。

「Enlarge Your Vision (ビジョンを拡大しよう)」をキーワードに掲げた**ARRI**は、6K 65mmシネマカメラ「Alexa65」の低価格普及版という4K 35mmフルサイズセンサーを搭載した「AlexaLF」を訴求した。ブースの担当者は、「ラージフォーマットに合わせて新しいLPLレンズマウントを採用した。HDRやWCGワークフローにも対応している」と強調しながらアジア市場への浸透を目論んでいた。

**REDデジタルシネマ**は、35.4メガピクセル8K S35 CMOSセンサーを搭載した「DSMC2

HELIUM」カメラを出展して注目の的になった。担当者は、「8129 x 4320フルフォーマット、最大60pのRED CODE RAWに対応している」と、8Kに興味を持ちそうな来場者に訴えていた。

**ハーモニック**は、

OTTサービス、IPワークフロー、SaaSソリューションのデモを実施した。OTTサービスのデモでは、同社の「EyeQ」コンプレッションがいかに高品質な映像再生に貢献できるかを熱心に説明していた。

英国の**V-Nova**も、間もなく販売を開始するというコンプレッション・システム「PERSEUS Plus」を訴求した。担当者は、「わずか6Mbpsで4Kムービーのストリーミングや4K 360/VRコンテンツの配信を実現する」と豪語して来場者を驚かせた。スポーツイベントの場合はどうかと聞いてみたら「10Mbpsで対応できる」と答えていた。

**テレストリーム**は、「フォックス・スポーツ」の依頼を受けVantage/Lightspeed LiveシステムとIBMのAspera FASPStreamを駆使して、サッカー・ワールドカップ・ロシア大会のストリーミングサービスを実施中」と実績を誇示していた。Vantageは、同社のプロセッシングプラットフォームで、Lightspeed Liveは、ライブ・マルチスクリーン・エンコーディングとパッケージングを実現できる。

Naoakira Kamiya  
衛星システム総研 代表  
メディア・ジャーナリスト

**SWE DISH**

緊急報道  
ハイビジョン映像伝送  
Ku-band/X-band

CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り  
120cmφ型

**衛星通信超小型可搬アンテナ**  
Suitcase CCT Satellite Communications Terminal



5分で運用開始

IATA対応収納ケース  
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

**エーティコミュニケーションズ株式会社**  
http://www.bizeat.jp TEL : 03-5772-9125

A Communications k.k.